

園長だより「あいさつ」 第13号

「おはようございます」

毎日というわけにはいかないのですが、門の前に立って、朝のご挨拶をさせていただいています。小学校の校長先生をしていた7年間、毎日、午前8時から30分間、正門に立って登校してくる子ども達を迎え、朝の挨拶をしてきました。

最後に4年間、勤務した小学校は児童数200人弱の小さな学校でしたので、自然と子どもたちの名前は全て覚えてしまいました。「〇〇さん、おはよう！」「おはよう！〇〇さん、髪の毛、カットしたね。」「おはよう、〇〇さん！新しい靴やね。大切にせんとあかんね。」「おはよう！〇〇さん、昨日お休みしてたけど、元気になった？」

そんなことを言いながら子ども達と朝のあいさつするのが私の一日のスタートでした。今考えると、子ども達と朝の挨拶を交わすことで私自身がエネルギーをもらっていたような気がします。

着任して最初のうちは恥ずかしそうにうつむいたりする子どももいました。高学年の中にはフン！と一瞥をくれるだけの子どももいました。「挨拶はキャッチボール」と言いますが、投げても、投げてもボールが戻ってこないこともありました。でも、あきらめずに毎日続けているとそのうちに子ども達はあいさつを返してくれるようになりました。

さて、皆さんはお子さんに挨拶をしてくださっていますか。「おはよう」以外にも言えるようになってほしい挨拶や言葉がたくさんあります。「おやすみなさい」「いただきます」「ごちそうさまでした」「ありがとう」「ごめんなさい」などが挙げられますね。皆さんはお子さんがこんなあいさつや言葉が自然に出る子どもに成長してほしいという願いを持っておられますか。どうすればそんな子どもに成長してくれるのでしょうか。

「明日からおはようございますとおやすみなさいは必ず言いなさい！」

確かにこれもしつけの一つの方法なのかもしれませんが、でも一番いい方法は保護者の皆さんが模範を示してくださることです。また、いつものことを言ってるなどお思いの方もおられるでしょう。そうです。「また」なんです。保護者の皆さんがお子さんに与える影響力はお子さんが幼ければ幼いほど大きいものです。「三つ子の魂百まで」という言葉もあるくらいです。「子どもは親の背中を見て育つ」とも言います。皆さんからお子さんに正しい挨拶のボールを投げてあげてください。最初は上手にキャッチできないお子さんもいるかもしれませんが、一朝一夕に行くものではありません。でも、根気強く、丁寧に投げ続けていれば必ずキャッチして投げ返してくれるようになります。この「根気強く」「丁寧に」という言葉は子育ての全てに当てはまる大切なキーワードです。

お子さんがこれから大きくなっていく中、挨拶がしっかりできることで得をすることはあっても、損をすることはほぼありません。小学校や地域の方に「城東ちどり保育園を卒園した子ども達はみんな元気ないい挨拶ができるね。」とほめていただけるように私たちも頑張りたいと思います。どうかご家庭でもご理解ご協力をお願いいたします。